



9月定例会

第184号

令和4年11月1日

議会だより

行政報告・補正予算など…	2～3
町政のそこが聞きたい……	4
一般質問……	5～8
常任委員会の動き……	9～10
研修報告……	11



令和4年7月31日(日)晴天の中、関係者を含めて800名の来場

プチカウモン青空広場

主催：標津町商工会 総務企画委員会
会場：標津町商工会駐車場

昨年に引き続きコロナ禍におけるコロナウイルス感染症対策により規模を縮小して開催でしたが10店以上の出店があり盛況でした。

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

基幹産業の状況について



山口将悟町長の行政報告

基幹産業の状況

酪農業

今年、4月から6月の天候が日照・気温・降水量とも平年に経過し、牧草の生育は総じて平年並みとなった。

その収穫作業については、6月中旬から7月中旬に曇りや長雨の影響を受け大幅に遅れた経営者も多く、自給粗飼料の品質低下が憂慮されていた。

その後、天候が回復しているものの、1番牧草の収穫作業遅延により2番牧草の生育に遅れが生じている。

生乳生産については、コロナ禍での生乳需給緩和による生乳の生産抑制に伴い生産調整が行われているが、4月から8月末までの生乳生産量は、対前年比1

01.5%、累計で4万7600トン、対前年比686トン増となっている。

また、コロナ禍に加えロシア・ウクライナ情勢により国際流通が不安定となり、輸入飼料・生産資材・肥料価格の高値上昇、施設機械の整備に係る費用や燃油費など維持経費の高騰による酪農経営コスト上昇に伴う利益圧迫が懸念され、今後の酪農経営に与える影響が心配されるところである。

漁業

8月末に終了した小定置漁の結果は53・6トンであり、昨年の60%ほどの漁獲となり、目回りは昨年より500gほど少なく2・68kg。最近15年間では最

も小さい目回りとなった。

次に、定置漁については、9月1日から5日まで網入の自主規制が行われたため9月6日からの網入となり、途中シケ模様により網入を延期した漁場も多くあり、初水揚げの9月9日に間に合わない漁場もある中で、5ヶ統が操業した。

9月12日までの水揚げ量（小定置含む）は143.5トン。昨年より25%ほど少ない漁獲であり、累計平均単価については、昨年より1割弱ほど高く1kg当たり947円（昨年870円）である。

まだ水揚げが始まってから5日目であり、漁模様について言及できる時期ではないが、今年の根室北部海域は昨年より12%ほど増加しているものの、極め

て厳しい来遊予測が発表されている。

ホタテ漁については8月23日に夏の操業を終え、漁獲量は4570トン（昨年6617トン）であった。4月中旬には2990トン水揚げし、以後日産50〜60トンペースで操業された。

単価については、春先まで1kg当たり200円台前半〜100円程度と昨年と同じく推移し、その後夏に入っ

て単価は上昇し8月には1kg当たり380円と高騰したこともあったが、夏操業終了時の平均単価は昨年とほぼ同額の211円である。水揚金額は9億7千万円と前年同期と比べ31%ほど下回っている（昨年14億円）。シケや濃霧により出漁回数も減り、日産の減少にも影響した状況であった。

一般会計の補正予算(主なもの) 内容欄の☐は新型コロナ対策の事業

(単位:千円)

項目	金額	内容
デジタル化推進・行政事務等電子化事業	992	マイナンバーと連携した公金受取口座情報の照会、支給申請管理等に係るシステム改修
自治体基盤クラウドシステム等導入事業	5,977	証明書のコンビニ交付及び被災者支援システムの導入
高齢者世帯等生活支援事業	7,317 (需用費含む)	物価高騰対策等として、町道民税非課税である高齢者及び障がい者世帯に対し、24,000円/世帯(道基準12,000円に町独自で12,000円を上乗せ)を給付 【予算計上額】 300世帯×24,000円=7,200千円
新型コロナウイルス感染症対応協力助成金	50,000	コロナ禍における標津はまなす苑(特養、ショートステイ、デイサービス)の、利用者受入制限等の感染症対策に係る協力金として交付 ☐
プレミアム商品券発行事業補助金	17,054	町商工会が実施する「プレミアム商品券発行事業」に対する補助金 発行総額65,000千円の内、プレミアム分(30%)を町(20%)と道(10%)がそれぞれ負担。
新型コロナウイルス感染症経済対策事業	9,800	道の事業継続緊急支援金を受給している若しくは売上が減少かつ原材料単価高騰の影響を受けている事業者に対し、法人100千円、個人50千円を支給。
魅力ある商店づくり事業	450	商工会が実施する賑わいづくり事業(ハロウィンイベント)に対する助成
町内中学校トイレ手洗場自動水栓化事業	3,971	町内中学校トイレ、手洗場の自動水栓化改修工事(2校、10カ所)
川北こども園施設補修等整備費	1,928	園内水道の自動水栓化改修工事(3カ所)
図書館移転事業	89,519	図書館移転に向けたあすばる・ふるさと館の内部改修、備品購入、書籍備品等運搬委託等

同意案件

教育委員会委員

高橋 靖子 氏

標津町南2条西1丁目1番11号

〈任期〉

令和4年11月1日～

令和8年10月31日

意見書

○道教委「これからの高校づくりに関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求めめる意見書
提出者 山崎 英司 議員

○国土強靱化に資する社会資本整備等に関する意見書
提出者 南 憲治 議員

決算審査特別委員会

令和3年度の決算を、議長と町議会選出の監査委員を除く8名で構成される決算審査特別委員会に付託しました。

期限 令和4年11月30日

委員長



大垣 勇 議員

副委員長



山崎陸郎 議員

健全化判断比率等を承認

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、健全化判断比率等の報告があり、承認した。

実質公債費率は8・5%

(早期健全化基準は25%)

で、資金不足比率はない。

一般質問

一般質問とは、定例会において、各議員が住民を代表して、行政全般にわたり町執行機関の政策・方針を質す事です。
単に疑問を晴らし、事実関係を明らかにするだけでなく、現行の政策を見直し、新規政策を提言する議員の重要な活動です。

町政のそこが聞きたい

令和4年第3回定例会(9月14日)で4議員が一般質問をしました。
各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。

★小川議員と山崎議員は山口町長に、吉田議員は山崎教育長に、石橋議員は町長と教育長の双方に対して、各々下記項目に関して質問をしました。

小川 悠治 議員

5ページ

● 千島海溝・日本海溝沿い巨大地震 **M9級**
『標津町 最悪700人死亡!!』の被害想定

標津町の防災対策の現状を質す！

7月28日の衝撃的な被害想定の公表を受けて…



質問中の小川議員

吉田 智 議員

6ページ

● ~子どもたちの「学習の躓きの原因」を把握~

学びの基礎に関する調査

『たつじんテスト』の活用で

「学ぶ喜び」と「教える喜び」を！

「学習の躓きの根」を解きほぐすために…



質問中の吉田議員

石橋 昌幸 議員

7ページ

● 重要課題である『標津高校の存続』

町長と教育長の所見を伺う！

『地域連携特例校』の先行きを案じて…



質問中の石橋議員

山崎 陸郎 議員

8ページ

● 海岸浸食の現状と

今後の方策を問う！

国道335線の切り替え工事を視察して…



質問中の山崎議員



小川 悠治 議員

千島海溝・日本海溝沿い巨大地震

M9級

『標津町 最悪700人死亡!!』の被害想定

標津町の防災対策の現状を質す!

『千島海溝・日本海溝沿い巨大地震』の発生による津波での根室管内の人的被害【死者数(人)】 表

市町村名	推定人口	【夏・昼】		【冬・夕】		【冬・深夜】	
		早期避難率高+呼び掛け	早期避難率低	早期避難率高+呼び掛け	早期避難率低	早期避難率高+呼び掛け	早期避難率低
根室市	25,163	430	1,900	1,300	2,300	990	1,700
別海町	14,914	30	330	40	350	50	370
標津町	5,187	※-	700	10	640	10	460
羅臼町	4,867	-	10	-	10	10	10
合計	50,131	460	2,940	1,350	3,300	1,060	2,540

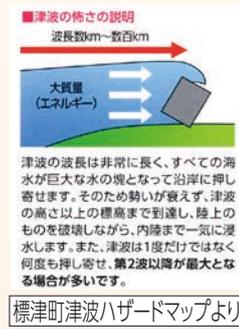
※「-」は僅かな被害(5人未満) 早期避難は地域・季節・時間帯によるが(凡そ10分)が目安

問 道は7月28日、想定される千島海溝・日本海溝沿い巨大地震による市町村別の人的被害想定を初めて公表した。

表

被害想定は、千島・日本海溝沿い巨大地震発生時の被害を浸水想定に基づき●夏の昼間●冬の夕方●冬の深夜の3パターンに分け、「早期避難率」が高い

場合と低い場合を推計したものである。



標津町津波ハザードマップより

この想定が示された標津町は『今回の想定をしっかりと受け止め今後の対策を検討したい』としている。

「早期避難率」が高い。しかしながら、早期避難率が高く、更に避難の呼び掛けを実施した場合、人的被害を僅かな被害(5人未満)に激減する事ができるとの想定である。但し、寒冷時期においては、早期避難ができたとしても、「低体温症」の被害も予想され、標津町の死亡リスクは380人との想定。

標津町においては、最悪のケース(夏の昼間・早期避難率が低い場合)、人口の13.5%の「700人死亡」が想定されており、住民は大きな衝撃を受けている。しかしながら、早期避難率が高く、更に避難の呼び掛けを実施した場合、人的被害を僅かな被害(5人未満)に激減する事ができるとの想定である。

巨大地震の発生が切迫している事も鑑み、本町の防災対策の現状に関して、3点を質す。

- ① 住民に対する早期避難の周知徹底に関して
- ② 町職員における防災教育、研修、訓練の実態に関して
- ③ 低体温症等、寒冷時期の対策に関して

答 当町の防災対策に関して、御指摘の3点に沿って答弁する。
① 従前より、広報誌・防災行政無線により早期避難の周知徹底に努めている。昨年度より「広報しべつ」に「防災講座」を10回に渡り掲載し、地震、津波等災害に関して明確に解説している。本年2月に「津波ハザードマップ」を各戸に配布。それに先駆けてWeb版に津波コンテンツを追加した。標津高校と連携し小中学生を対象に、地域循環型防災教育授業を実施している。更にスマートフォンによる防災行政無線の放送聴取を研究・検討する。

今後「避難」を住民の皆様へ啓蒙し、意識の普及に努めて行く。

災害時対応の要である町職員の意識の共有と維持の為、防災の教育・研修・訓練を実施し研鑽を積んで行く。
③ ポータブル石油ストーブ、アルミマット、ウレタンシート、毛布、ダンボールベッド、使い捨てカイロ、ジェットヒーターを標津及び川北の備蓄倉庫に保管し災害時に備えている。燃料に関しては劣化等の問題があり、大量には備蓄できないが、釧根地方石油業共同組合と「燃料供給に関する協定」を締結し備えており、現在、北海道経産局と連携して「根室モデル」と言う燃料供給システムを構築中。長期に及ぶ避難の為に公共施設への発電機設置に関して検討する。

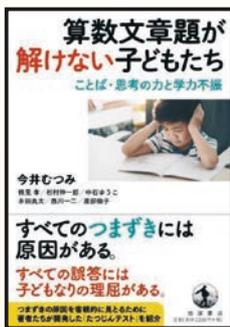
～子どもたちの「学習の躓きの原因」を把握～

学びの基礎に関する調査

『たつじんテスト』の活用で 「学ぶ喜び」と「教える喜び」を!



吉田 智 議員



算数文章題が解けない子どもたち

—ことば・思考の力と学力不信

著 者：今井むつみ・楠見 孝・杉村伸一郎
中石ゆうこ・永田良太・西川一二
渡部倫子
発行所：株式会社 岩波書店

参考資料1

問 参考資料1
を著した慶應大学教授今井むつみ氏のグループは、小学生の学力の基盤となる能力を測る事ができ、学力不振の原因を明らかにする事ができるテストの開発を、広島県教育委員会から委託された。この要望に応えるために開発されたのが、

「たつじんテスト」を活用した教育現場では「どんな事に躓いているのかが把握できる」との声。「たつじんテスト」を活用し、子どもたちの躓きの根を解きほぐし、子どもたちに「学ぶ喜び」を、先生方に「教える喜び」を享受して頂きたい。 「躓きの原因分析」に関する所見を質す。

「ことばのたつじん」と「かず・かたち・かんがえるたつじん」の二つの『たつじんテスト』である。前者は主に、ことばに関わる知識を測り、後者は、数と図計に関する知識と推論の能力を測るものである。

グループは、広島県と福山市において、各々三度の調査を実施。「たつじんテスト」の結果を質的分析及び統計分析の結果、「知識が断片的」「誤ったスキーマを有している」等7つの「学習の躓きの原因」を解明。

※スキーマ[schema]:認知心理学において、これまでの生活経験や学習経験の中で、培ってきた枠組みとなる知識

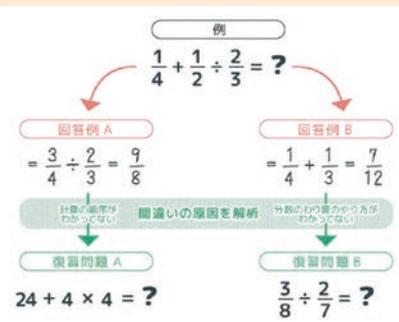
答 教育長 昨年末、先進事例を視察し、エビデンスの蓄積、有効性を確認し、本年8月よりA型教材「Qubena（キューベナ）」

参考資料2

の、トライアル利用を実施。その主な特徴として、
①A型が子どもに合わせ、最適な問題を出題
②小学校・中学校の主要5教科に対応
③5教科の学習に必要な様々な操作に対応（ペン、定規、コンパス、分度器等使用可）
④瞬時に子どもの理解度を把握し、個々にきめ細やかな指導が可能
：の4点が挙げられる。当A型教材を来年度より正式に導入し「学習の躓きの原因」を把握し、個別に最適な学びの実践と、個々の個性に適合した指導へと繋げて行きたい。

AIが一人ひとりに合わせて最適な問題を出題

生徒によって間違え方はそれぞれであり、解決方法もそれぞれです。Qubenaでは、間違いの原因をAI(人工知能)が解析し、搭載している数万問から一人ひとりに個別最適化された問題を出題します。たとえ過去の単元や前の学年の分野にたつずきポイントがあったとしても、AIがそれに気づき、その問題へ連れていってくれます。生徒間の学力に課題がある場合や習熟度別のクラスでも、基礎から応用まで様々なレベルに応じた学習ができます。



参考資料2
A型教材
Qubenaの特長

重要課題である『標津高校の存続』

町長と教育長の所見を伺う！



石橋 昌幸 議員

問 北海道教育委員会
は令和5〜7年度の公立
立高等学校配置計画を、
本年9月上旬に策定し
た。これにより、地域
連携特例校に指定され
ている高校であっても
再編整備の対象となり
得る。地域連携特例校
は、1学年1学級の小
規模で近隣の高校への
通学が難しく、地元か
らの進学率が高い高校
を対象に道教育委員会
が導入し、標津高校も
指定されている。同校

はこの数年入学の生徒
が減少しており、この
ことで再編整備される
枠の中に入る可能性が
高まっている。「標津
町で子供が成育するま
で故郷を感じて学ぶ」
そのためには、こども
園、小学校、中学校、
高校と一貫して町で教
育を受けられる場が必
要である。又、現在標
津高校の教職員は17名
であり、家族を含めた
当町にもたらず経済的
影響も大きい。標津高
校存続のため、学校関
係、行政、企業関係、
地域住民組織など全町
的取り組みが必要と考
えるが、町長・教育長
の所見を伺う。

答 町長 標津高

校の存続のため通学費
の助成をはじめとする
様々な支援により他町
から生徒を呼び込むこ
とで、1学年2間口を
維持してきたが、残念
ながら令和2年度から
1間口となり、令和4
年度から地域連携特例
校に指定された。標津
高校は町内唯一の高校
として、本町の教育の
中核を担っており、地
域文化の向上や地域経
済の進展に重要な役割
を果たしている。「人
口減少時代に挑戦する
政策パッケージ」の30
事業に、標津高校の魅
力づくりを掲げており、
標津高校の存続問題は
標津病院対策と共に、
当町にとって最重要課
題と捉えている。

今後も積極的且つ継
続して、支援をして行
く考えである。



標津高校の授業風景

答 教育長 ※①公共

交通機関により町外の
高校に通学が困難な地
域がある②地元中学校
からの進学率が過去3
年間において50%以上
の年が1回以上ある
の地域連携特例校の指
定要件を昨年度に満た
し、標津高校は、指定
校として存続に至った。
但し連携校に指定さ
れても入学者が20名未
満となり、その後も生
徒数の増加が見込まれ
ない場合は再編整備が
進められる。平成7年
に「標津高校教育振興
会」を設立し1学年2
学級の確保を目的に町
外から生徒の受け入れ

※小規模校[1学年1学級(20人以上)]の規定を前提にして…

を拡大するため、バス
通学費の全額補助など
いくつかの支援の結果
一時的に入学者が増加
した。一方で地元中学
生の入学する割合が減
少し始めている。今後
の支援は①地域連携特
例校として、存続可能
な20人以上の入学者数
を目指す②町外からの
入学促進から、地元の
入学増加支援への転
換③中学生から選ばれ
る魅力ある高校づくり
を方針とする。生徒の
目線による支援へと見
直すことを念頭に、標
津高校の生徒会役員と
の懇談会を開催し、生
徒の要望を支援追加拡
充策に反映させた。
標津高校存続の重要
性を踏まえた上で引き
続き、子供達の夢が叶
えられる魅力ある高校
づくりのため、推進し
て行く。

～国道335号線の切り替え工事を視察して～

海岸浸食の現状と

今後の方策を問う！



山崎 陸郎 議員

問

7月19日、総務経済常任委員と文教福祉建設常任委員会が合同で、国道335号線の切り替え工事に伴う住宅・倉庫等へのアクセス道路を、町道と認定した件の現地視察を挙げた。詳細は9頁参照

国道が内陸側に移動した事で路線の安全は確保されたが、移動の原因である、海岸浸食は、今も続いている。しかも移動した事によ

り、国道から海岸線が見えなくなり、浸食に気付きにくくなっている。

薫別・浜古多糠・忠類・伊茶仁各地区は総じて、国道が内陸側に移動したが、どの海岸も浸食が進んでいる。

海岸の管理者は、道であるが、町として、現状を把握し、措置を訴えて行くべきである。

一方、標津市街から茶志骨・野付半島方面の海岸は、標津漁港や海の公園で守られているが、昭和時代は堤防から海まで100メートル以上の「浜」があり、野球や海水

浴、キャンプ等の遊びや、鞍馬競技会等、広場として使われていたが、今では防波堤に直接波が打ち寄せている。

野付半島は本年、国定公園の候補地に選ばれた、日本最大の砂嘴である。この半島の基部は標津町だが、ここも浸食は進み、堤防やテトラポット、土嚢に守られている。

近年は異常気象により、時化が年毎に大きくなってきているが、この道路は秋サケ定置漁の重要な生活道路である。時化による交通規制など無い様、十分に留意して頂きたい。標津町の海岸浸食の

抜本的な原因究明が必須である。町としての今後の方策を問う。



答

本町の境界の両端は野付半島から崎無異までの地先約40kmは、オホーツク海に面している、長年の自然の力により海岸浸食が至る所で進んでいる。

今年7月、両常任委員会が現地視察をした崎無異地区の国道切り替え工事は、海岸浸食を起因とした内陸部への切り替え工事である。野付半島は標津川などの河川から長時間かけて流れ出た、砂礫の堆積により形成され、生活の場となり、トドワラ・ナラワラなどの景観は、ラムサー

ル条約登録地として野鳥の聖地であり、今般は、国定公園の候補地に選ばれた貴重な所だが、海岸浸食により危機に直面している。

海岸は波浪を減衰させ波の侵入を防ぎ、集落や生活域を守る重要な役割を果たしている事から浸食防止対策が重要で急務である。

浸食の主な原因は、
①気象変動
②太平洋プレート沈下
③海面上昇

その他、海流の変化、漂砂の減少などが推察されている。

北海道では総合的に海岸保全を推進する為、平成15年に海岸保全基本計画を策定し離岸堤や突堤の施設整備を進めている。

本町として、海岸の管理者である北海道に対して早急な対策を積極的に要請している。

常任委員会の動き

町内行政視察研修等

総務経済常任委員会と文教福祉建設常任委員会の委員会活動の報告をします

総務

経済

7月19日

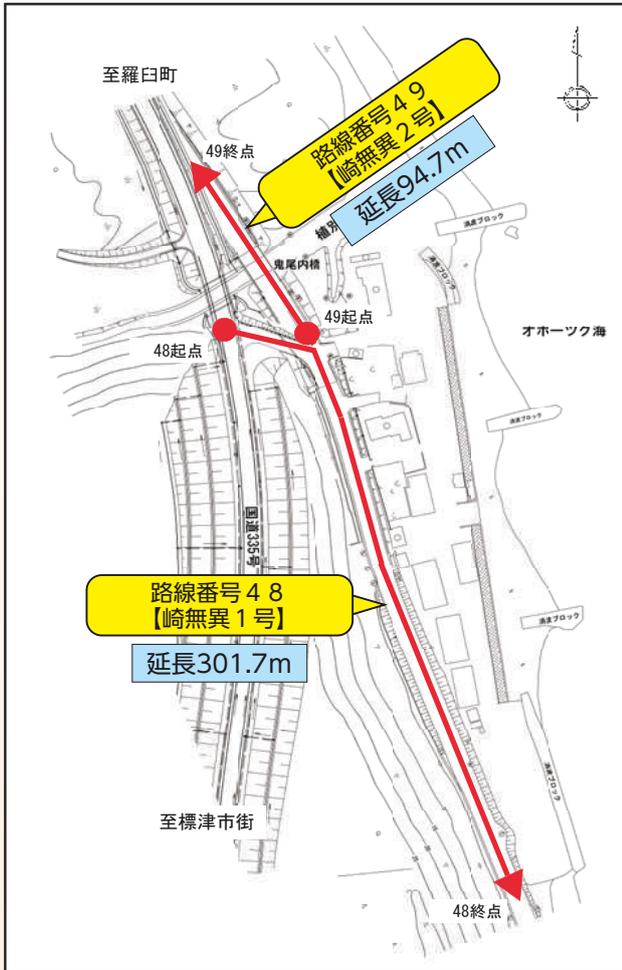
総務経済文教福祉建設常任委員会
合同町内行政視察

町道(崎無異1号・2号)及び

乳薫橋の現地施設

海岸浸食により、山側に移された国道335号線の切り替え工事に伴い、国道に隣接した住宅や倉庫へのアクセス道路が、町道崎無

異1号・2号と認定された。今回、その現地を視察した。現地では、北海道開発局釧路開発建設部小城道路路施行保全官より説明を受けた。



【町道(崎無異1号・2号)詳細図】



【道道薫別川北線道路改良工事箇所】

道道薫別川北線に架かる「乳薫橋」を含む路線について、役場建設水道課立島課長より説明を受けた。

この整備事業の事業主体は釧路建設管理部であり、国道335号の薫別地区を起点として、乳薫橋から古多糠地区を経て、川北地区の国

道244号を終点とする総延長12・9kmの道路である。

崎無異・薫別地区から斜里・網走方面への重要な交通アクセス道路であり、本町の基幹産業である酪農業の生産活動道路として地域として重要かつ必要性が高い路線である。

文教

福祉

建設

第7回(8月26日)
文教福祉建設常任委員会

障がい者グループホーム

夢ふうせん『カント』

現地視察

【障がい者グループホーム・夢ふうせん『カント』】の施設状況等に関して、保健福祉センター守田次長より説明を受けた。



夢ふうせん『カント』の外観

施設の概要

① 構造・階数

木造平屋建て

② 延床面積253.18㎡

(76.58坪)



守田次長より説明を受ける

●居室・居住用 9室
シヨートステイ用1室

1室当たりの面積

10・80㎡(6・5畳)
＋クローゼット0・63㎡

●その他の部屋等：食堂、居間、厨房、世話人室、洗面・脱衣室(2箇所)、浴室(2箇所)、前室(2箇所)、トイレ(2箇所)、洗濯・

障がい者グループホーム夢ふうせん『カント』の『カント』はアイヌ語で「空」を意味します。

物干場(2箇所)、廊下(2箇所)、玄関(2箇所)、玄関ホール等

本町で初となる障がい者向けの共同生活援助施設【障がい者グループホーム・夢ふうせん『カント』】は、令和3年4月1日に開設した。町内の障がい者を家族に持つ町民からの強い要望を受け、旧双葉保育園跡地に建設された。

障がい者グループホーム

障害のある方が地域住民との交流が確保される地域の中で家庭的な雰囲気の下、生活上必要な支援を受けながら、少人数で共同生活を営む住まいの場です。

具体的な利用者

① 一人暮らしをしたいが単身での生活に不安がある方

② 一定の介護が必要であるが施設ではなく家庭的な雰囲気の中で暮らしたい方など

具体的な支援内容

① 共同生活を営むべき住居における相談、入浴、清掃、排せつ又は食事の介助等の日常生活上の支援の提供

② 利用者の就労先又は日中活動サービス等



施設の説明を受ける委員会メンバー

施設の種別

の連絡調整や余暇活動等の社会生活上の援助を実施

●共同生活を営む住居で、相談や日常生活の援助を行い、入浴、排せつ、食事の介護等のサービス提供を行う当施設(事業所)の様な形態は「介護サービス包括型」と呼ばれ、グループホームの中で、最も事業者数が多いタイプである。



居室の全景

研修会報告

全国町村議会議長会主催
令和4年度 議会広報研修会

9月20日 於：シェーンバッハ・サボ
〔東京都千代田区平河町2-7-4 (砂防会館別館)〕

～ 持続可能な“伝わる”議会広報紙への『改革と挑戦』～

令和4年度の全国議会広報研修会が、9月20日、東京都シェーンバッハ・サボにて開催され、大垣委員長、委員3名、計4名が参加した。

この研修会は、全国町村議会議長会の主催で開催されており、今回、東地区〔北海道・東海〕、西地区〔北信越・九州〕の2地区に分け、9月20日、21日の両日に渡り開催された。

3講師より、それぞれ、SDGsの観点、伝わる広報紙の作成ポイント、優秀議会広報クリニックの各分野を通して、議会広報の在り方が論ぜられた。

広報特別委員会

**全国議会広報研修会に
広報特別委員会
4名参加**



会場内での4委員

テーマ
「そろそろ化けませんか」
〔絶滅危惧から
持続可能な議会広報へ〕

(講師)

議会広報ファシリテーター
熊本大学客員教授

・越地真一郎氏
こえじ しんいちろう



プロフィール

熊本日日新聞を経て議会広報ファシリテーター。町村議会広報には20年以上前から携わり、これまで各地の研修会（府県・市町村単位）に参加。併せて、新聞を大学・専門学校・ビジネス・生涯学習などに生かすNIE（教育に新聞を）活動を行っている。

ファシリテーター【facilitator】：(会などの) 進行係、まとめ役。司会者。

テーマ
「これからの議会広報を考える」
〔住民に「伝わる」情報発信と
広報紙作成のポイント〕

(講師)

東京都杉並区広報専門監

・谷浩明氏
たに ひろあき



プロフィール

コミュニケーションをデザインすることを主軸とし、非営利組織のデザインや広報活動のサポート、広報研修を多数実施。平成28年度より東京都杉並区広報専門監。区全体の広報の助言、各広報媒体のディレクションなど広報・コミュニケーション活動をサポート。

元尚絅大学客員教授
元日本NIE学会理事

**NIE: Newspaper
In Education
tionの略**

テーマ
「優秀議会広報クリニック」
3つの議会広報が教えてくれること

(講師)

エディター

・吉村潔氏
よしむら きよし



プロフィール

昭和28年生まれ。取材記者、書籍編集を経て現職。上場企業の広報媒体の制作に携わる一方、行政・議会を中心とする広報セミナーの講師を勤める。専門分野は自治体広報。議員研修誌：『地方議会人』（中央文化社）に「市町村議会広報クリニック」を隔月連載中。

エディター【editor】：(新聞、雑誌、書籍の) 編集者、記者。編集人。

